神　戸　大　学　　経 済 学 部

<< 2014年度 >>

『 外 書 演 習 』

< E 343 >

平成 ２６年度 前期

水　曜　２　限

教室：I 320

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
4/16	4/23	4/30	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16
													試験

※ 7/16（水）：期末試験実施予定

授業科目名	外書演習		
担当教員	小 畠　孝治郎	開講期 前期	単位数 2 単位

授業のテーマと到達目標（Theme and Objectives）

(日本語) 広い経済英語の範囲の中から、テーマをマクロ経済に絞る。教材は *The New York Times* や *The Economist* などから抽出し、数値の増減を中心に考えることで、やさしく読解する。同時に、日本の経済新聞の、同様の記事を参照し、経済知識を高めて、記事内容の理解を深める。

(English) This course provides how to read the articles of the world economy in newspapers and magazines. The macro-economy will be read by the numerical changes in many aspects. Once you master how to read the changes, you will feel it easy to read the similar type articles as well. The comparison with the Japanese newspapers in the textbook will help you understand the world economy practically.

授業の概要と計画

・雇用、物価、外国為替、貿易収支、消費と、住宅・石油価格などのテーマから、適宜教材を提供する。これらの数字は「月、四半期、年」の周期で政府が公表し、半永久的に反復掲載され、読み方は不変、

・授業は、次の要領で進める。（1テーマを2週間かける）

1) 日本語の関連経済新聞を読み、基本知識を学ぶ
2) まず短めの英文で、記事の書き方、調子を学ぶ
3) 本文 full text (500-1000 字程度)を読む
4) 同種の記事(full text)を用意し復習にあてる

成績評価と基準

・期末試験 70%、受講態度(出席率＋小試験など)30%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

・まずは原文にぶつかり、考え、正解を聞くという順序で進歩する。

・予習は考えるために必要。復習は理解したことを体に覚えさせるために必須。正しい切れ目で切る音読と、自分の声を聞きながら、意味を取ることが大事。また、英語力は読書時間に比例して上達する。

オフィスアワー・連絡先

・非常勤ゆえ、まずメールで連絡を：kkobatake@gakushikai.jp

学生へのメッセージ

・高いレベルの原文にぶつかり、間違いを恐れず、「読めた！」と感動することが、進歩の原動力になる。

・総合商社勤務経験者の講師が語る、実践英語の授業です。

今年度の工夫

・使用する教材は（時には、その週のものを含め）原則、今年の新聞記事。

教科書

・プリントを配布(隔週配布予定)。

参考書・参考資料等

・大きな辞書の使用を推薦する（一例：「ランダムハウス英和大辞典」小学館)。

・その他の参考書は、授業中に紹介する。

授業における使用言語（Classroom Language）

・日本語(Japanese)

以上

2014年度 前期 『外書演習』

［水曜日：2 時限］

講義の目的と学習法

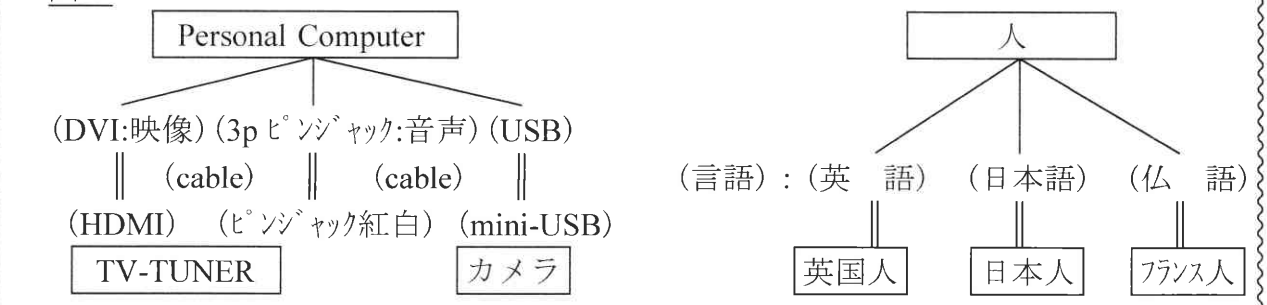
［1］英語の必要性と現状

・グローバル時代という意味。相互理解の必要性。
・英語は世界で、最も汎用性のある、標準語である。
・世界情勢の報道に偏りがある場合もある。海外から直接把握し「自分で判断」が必要。
・具体的方法：経済記事の中の「マクロ経済」を読む授業 → これを土台にして、他のジャンルは各自で進化させて下さい。

［2］日本人の英語 ［学習の方向と考え方。これがわかれば対策は自ずから決まる！］

・ビジネスパースンの間で、日本人は世界的に英語が下手と言われている！
・英語の「できあがり図＝ぺらぺら」は間違っていないか（理想像としては良いが...）。
・中学高校で本当に勉強したのか？
［英語］：3 日/週 X（52−8 週）X 1 時間 ＝ 132 時間。 6 年間で 792 時間
大学で 15 講義 X 90 分 ＝ 22.5 時間 1 年通期で 45 時間
［日本語］：15 年間 X 365 日 X 16 時間 = 87,600 時間 半分でも 44,000 時間
6 年間で本当に勉強したとは言い難い → 英語と接した合計時間が実力！
・英語の範囲は広い（思考の基幹部分で手段でもある。これは日本語を考えれば当然）。
・習ったのは基礎英語（PC の OS）。使うのは実用英語（PC の applications）。
・海外駐在は、恥をかくために渡航したようなもの。この克服が学習そのもの。
・本質は伝達の「内容」：手段としての「英語」の前に、「人格・日本語・論理」の向上を！
・英語はいわばコネクター・ケーブル。つなぐ中身の情報がなければ存在の意味なし。

<< 図 1 >>



［3］講義に関連した、具体的な学習方法と考え方

［対象としての英文ジャンルの範囲］

・範囲は広いので授業では絞り込む。**英字の新聞と雑誌→マクロ経済→「増減」**の表現
経済は、何らかの数字の増減を扱うので、「増減」の表現を理解すれば骨子は分る。

［文章の内容把握と単語の理解］

・書かれた英語の「**内容**」理解が究極の目的。

・直訳・意訳では脳の動きが異なる？　"Good morning!" は「良い朝」or「早い朝」？

・受験経験者は、筆記試験の英語の「日本語（文字）への言換え」は誰でもある程度、できるが、「内容を本当に理解しているか」はまったく別の問題。

・"an aerial* view" の意味がすぐ分かるかどうか *。　(aerial ＝大気/空気(air)の)

・理解は、言葉の言換えでなく、「映像が頭をよぎる」ように理解(翻訳の日本語は不要)。海外駐在員は、顧客との会話の際、日本語に翻訳せず、英語のまま内容を理解する。

・単語の意味は、大辞典の複数の日本語訳全体を読み、全体を包含して感覚で覚える。単純でやさしい、誰でも知っている単語ほど、用法を大辞典で読んで感覚で理解する。
例：『Random House 英和大辞典 第2版（小学館、1993.1 初版)』など。
* = a photograph taken from an airplane　＝ 航空写真。

［学習量の効果］

・一日1記事(約1000語)を読むと3年間で**100万語**突破。「**量**」の力を味わうべき。

・読書百遍の効果。同じ記事を2度3度読むと、加速度的に自然に身体につく。

［口に出す英語］

・**発音**は重要。「イット・イズ・ア・ペン」でなく「**イ**ティィズァペン」。物まねの精神で！

・**イントネーション**とアクセントは不可欠の重要事項。

・ウォッカ・トニック（Vodka のソーダ割り）を日本語で注文しても出て来ない。「馬ッ鹿狸（バを強く）」と言えば一回で持ってくる等、笑い話の例は少なくない。

［4］英語の種類：頻出する単語、用法が少しずつ異なる。

・経 済 英 語　講義の対象？。それでも広い → マクロ経済の新聞英語 → 増減に注目

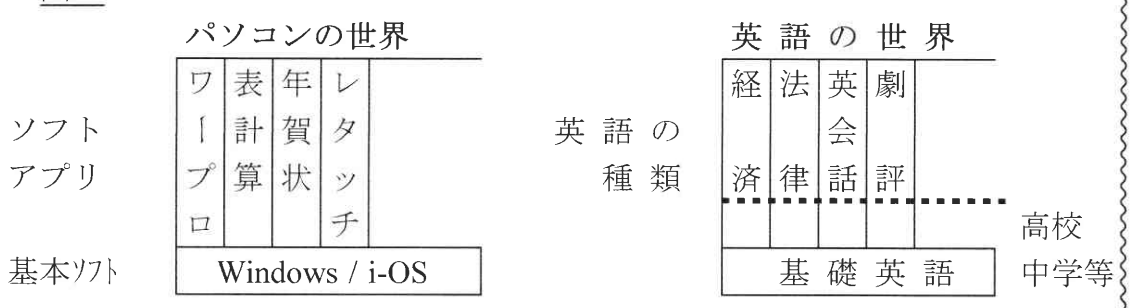
・法 律 英 語　ゴルフルールで模擬体験。少しくどく見える。正確に表現。

・文　　学　伝統的な英語教育で使用され、皆さんも学んできた。劇評等は読めない。

・取扱説明書　技術系英語もある

・広告の英語　比較的わかりやすい(誰でもわかるようにやさしく書いてある)

<< 図2 >>



［5］人生と英語　(結論のひとつ)

人は、どれほど多くの素晴らしい人たちに出会ったかで、その人物の大きさが決まる。
英語は、どれだけの時間、英語に接してきたかで、その人の英語力が決まる。

①法律英語のたぐい（例）:

USGA RULES OF GOLF 2000-02

Courtesy on the Course

Safety

Prior to playing a stroke or making a practice swing, the player should ensure that no one is standing close by or in a position to be hit by the club, the ball or any stones, pebbles, twigs or the like which may be moved by the stroke or swing.

［単語］☆ prior to　～の前に、前もって。　☆ swing　クラブを振ること。¶ practice swing 素振り
☆ stroke ゴルフボールを打つ意思を持ってクラブを振ること。 ☆ pebble 小石。 ☆ twig 小枝。

［構文］{Prior to (playing stroke) or (making swing)}, the player should ensure that {(① no one is standing close by) or (② in a position to be hit by) ←① the club. ② the ball or ③［any stones, pebbles, twigs or the like {which may be moved by (stroke or swing)}］.

［試訳］　ストロークや素振りをする前に、プレヤーはすぐそばに人が立っていないことや、クラブ、ボールあるいは小石、砂、小技その他ストロークや素振りによって動くものが当たりそうな位置に誰もいないことを予め確かめなければならない。

［日本語］　『ゴルフ規則』（1999 年版：(財)日本ゴルフ協会）に記載の表現。
プレーヤーは、ストロークや練習スイングをする前に、次のことをよく確かめるべきである。
（イ）クラブが当たるような身近な所に誰も人がいないこと。
（ロ）球や石・小枝などが飛んでいって当たるおそれのあるような場所に誰も人がいないこと

Out of Bounds （OB）　　図の、①～⑤のどの状態からが OB（out）か。

"*Out of bounds*" is beyond the boundaries of the *course* or any part of the *course* so marked by the *Committee*.

When *Out of bounds* defined by reference to stakes or a fence or as being beyond stakes or a fence, the *out of bounds* line is determined by the nearest inside points of the stakes or fence posts at ground level excluding angled supports.

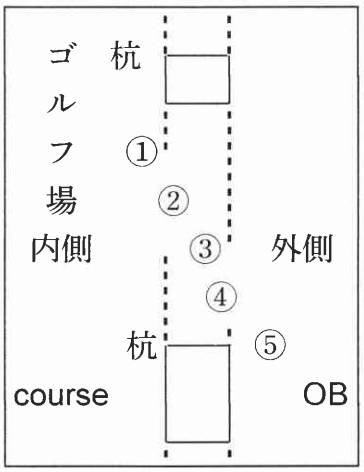
Objects defining *out of bounds* such as walls, fences. stakes and railings, are not *obstructions* and are deemed to be fixed.

When *out of bounds* is defined by a line on the ground, the line itself is *out of bounds*.

The *out of bounds* line extends vertically upwards and downwards.

A ball is out of bounds when all of it lies out of bouds.

A player may stand out of bounds to play a ball lying within bounds.



②経済英語：　（The Economist "Business this week, March 17, 2011" ）

Stockmarkets swooned around the world in reaction to the nuclear crisis in Japan. In Tokyo the Nikkei index fell by almost 11% in one day. With one of the worst debt positions among industrialised countries, the cost of insuring against default on Japanese sovereign debt soared. Tokyo Electric Power Company, one of the world's biggest energy providers, which operates the stricken Fukushima Dai-ichi nuclear-power facility, saw its share price slump, raising questions about its viability. See article　[swoon：気絶する苦痛で気が遠くなる viability：生存の能力。]

③取扱説明書の例（紅茶の入れ方）　TEA SINCE 1849　BY　Harrods　No.14

Exclusively blended tea
ENGLISH BREAKFAST
20 TAGGED AND ENVELOPED TEABAGS

Each tea in this balance of four fragrant blends has been carefully selected from gardens around the world to create a breakfast cup of sheer perfection. The full-bodied flavour of Ceylon complements the bright colour of a fine Kenyan tea, while malty, bold Assam is enhanced by the aromatic Darjeeling.

For the perfect cup of tea, first warm the teapot with a small amount of boiling water and empty, putting one teabag for each person and an extra 'one for the pot'. Pour over freshly boiled water and leave to brew for three to five miniutes, then stir. Pour the brew into fine china or porcelain cups, and add milk, sugar or honey to taste.　（sheer：混ぜ物のない、完全な。）

④実用の英語（WEB）　（The Economist on the WEB の例）

Customer service

- To unsubscribe from this newsletter click here.
- As a registered user of Economist.com, you can sign up for additional newsletters or change your e-mail address by amending your details.
- If you received this newsletter from a friend and you would like to subscribe to Economist.com's wide range of newsletters, please go to the Economist.com and fill out the registration form.
- This mail has been sent to: XXXXX@XXX.ne.jp
- Questions? Comments? Use this form to contact Economist.com staff.　Replies to this e-mail will not reach us.

参考書：

・大辞典の例：「ランダムハウス英和大辞典　第2版」小学館　1994.1.　第1刷
・「トレンド日米表現辞典」根岸裕、小学館、1998
・「ニュース英語パワーボキャビル」小林敏彦、語研、1998 など
・マーク・ピーターセン『日本人の英語』『続日本人の英語』岩波新書

以 上